



このように、診療所と病院がそれぞれの得意分野を活かし相互に連携しながら、地域全体で患者さんの治療にあたっています。

医師や看護師など地域の医療資源が不足する今日にあっては、限りある医療資源を「公共」のものとして、有効に活用していかなければなりません。

こうした状況を踏まえ、次の点について、みなさまのご理解とご協力をお願いします。

1. まずは身近な「かかりつけ医」を受診しましょう。
地域の医療連携にご理解いただき、診断や治療の初期段階では、できるだけ診療所やクリニックを

受診しましょう。

2. 当院に受診している患者さんで、病状が安定し「かかりつけ医」による診療が可能と判断した場合には、「かかりつけ医」を紹介しています。
3. 日ごろから、ご自身およびご家族の健康状態を把握するなど、健康管理に努めましょう。
4. 当院が提供する医療の内容をさらに詳しくお知りになりたい方は、ホームページ
(<http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/>) をご覧ください。



病院長 島野 高志

病院長挨拶

今回の「病院だより」では、地域の医療連携について特集しました。

みなさんご承知のとおり、現在、全国各地で医師不足による医療崩壊が大きな社会問題となっています。

当院でもやむを得ず、産婦人科、麻酔科をはじめとして一部の診療機能を縮小しており、この豊能地域においても、医療崩壊が現実のものになりつつあると認識しております。

医師や看護師など地域の医療資源には、限りがあります。今後も地域で必要な医療を安定的に提供するためには、限りある医療資源を効率的に利用していかなければなりません。

当院では、産婦人科において「二人主治医制度」を導入するなど地域の診療所や病院と役割を分担し、それぞれの特性を活かしながら、地域全体で患者さんの治療にあたるという病診・病病連携を進めています。

当院の地域での役割は、すでにこの「病院だより」でもご説明申し上げましたが、急性期の患者さんの検査や治療にあたることであると考えており、地域での役割分担の考え方から、初期的な診断や治療はできるだけ診療所やクリニックでかかられますことをお願いしております。

また、当院での療養中に、担当医師が「かかりつけ医」への受診を勧めることがありますが、このような考え方から申し上げているわけで、是非ともご理解をいただきたいと思えます。

いざと言う時には、みなさんに信頼してお越しいただけるよう、今後とも地域の急性期病院として医療機能の充実に努めてまいります。

当院が進める地域医療連携にご理解とご協力をお願い申し上げます。